

ADempiere (3.5)

インストールマニュアル 補足

ADempiere Community



ADempiere

Contents

改定履歴	3
1 はじめに	4
2 Oracle XE のセットアップ	4
2.1 Oracle XE のダウンロード	4
2.2 Oracle XE のインストール	5
2.3 Oracle XE の起動設定 (任意)	10
3 PostgreSQL のセットアップ	11
3.1 PostgreSQL のダウンロード	11
3.2 PostgreSQL のインストール	11
3.3 PostgreSQL の起動設定 (任意)	17
3.4 PostgreSQL のアクセス設定	18
3.5 PostgreSQL のパス設定	19
3.6 Adempiere 用データベースの作成	19

ADempiere

改定履歴

Version (改定日)	改定箇所	改定者	改定内容	備考
Ver0.01 (2011/04/28)	-	syatsuzuka	Kubotti の資料をもとに初版 作成	

サンプル

ADempiere

1 はじめに

本マニュアルは、ADempiere3.5 のインストールに必要となるデータベースの設定手順を記したものです。

本マニュアルでは、Oracle XE と PostgreSQL のインストール手順を説明しており、どちらかをインストールする必要があります。

2 Oracle XE のセットアップ

2.1 Oracle XE のダウンロード

Oracle XE(eXpress Edition)は、無償で入手することが出来るデータベースソフトウェアです。

(参考 URL)

<http://journal.mycom.co.jp/news/2006/02/27/340.html>

オラクル社のページからダウンロードしてください。ダウンロードするにはユーザー登録が必要です。Windows 用の Oracle Database 10g Express Edition (Universal) をダウンロードしてください。

Oracle XE のダウンロードサイト

<http://www.oracle.com/technology/software/products/database/xe/index.html>

ADempiere

2.2 Oracle XE のインストール

Oracle XE のインストール手順を以下に記します。

(手順 1) インストーラの実行

ダウンロードが完了したらインストール用の実行ファイルをクリックします。

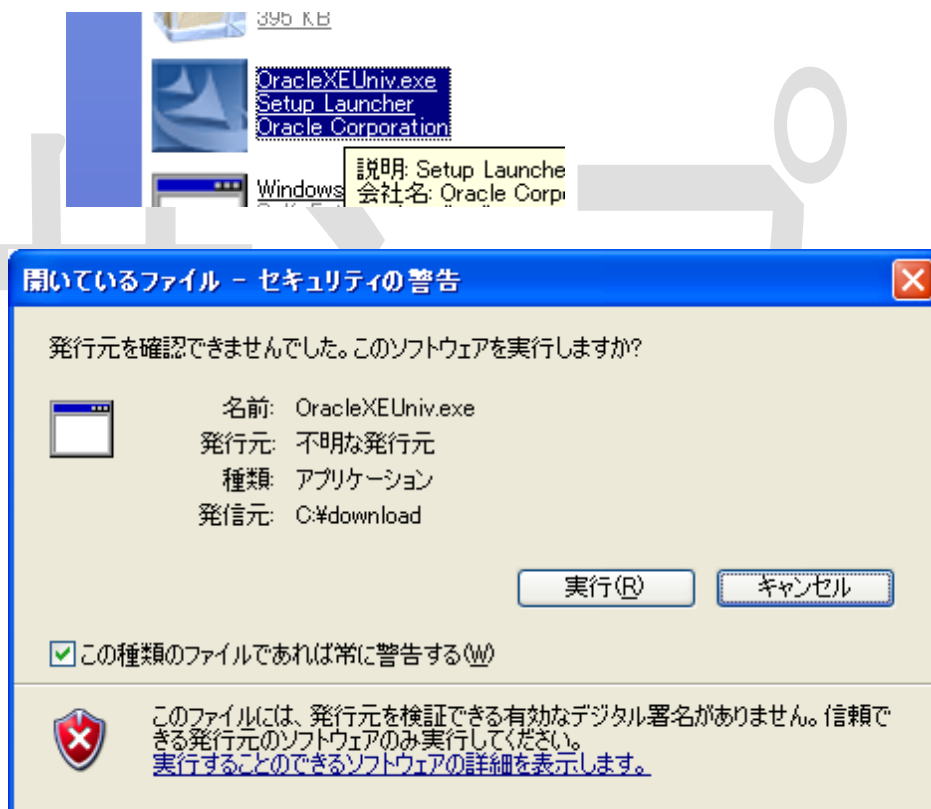


図 2-1 インストーラの実行確認

インストーラーが起動するので指示に従ってインストールして下さい。



図 2-2 Oracle XE インストール・ウィザード



図 2-3 使用許諾条項の同意確認

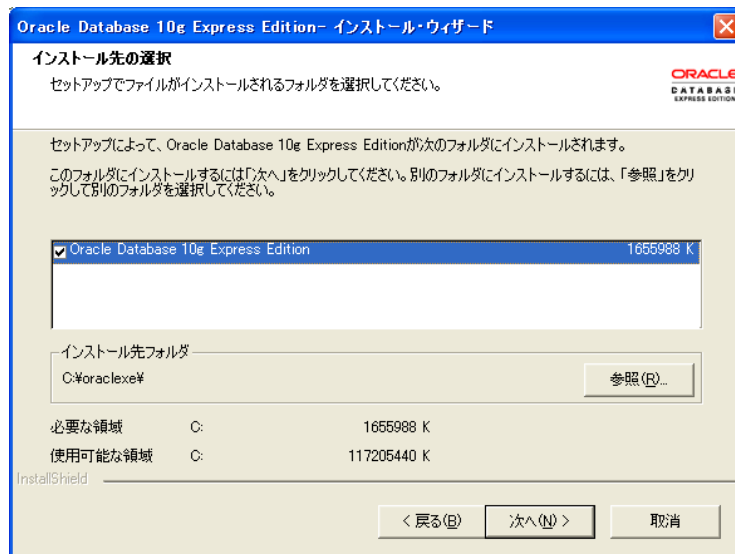


図 2-4 インストール先の指定

(手順 2) Web 管理ツールの使用ポート指定

Oracle の Web 管理ツールはポート 8080 を使用します。

8080 ポートがすでに使われていた場合は、以下の画面が表示されるので、任意のポート番号を指定してインストールして下さい。

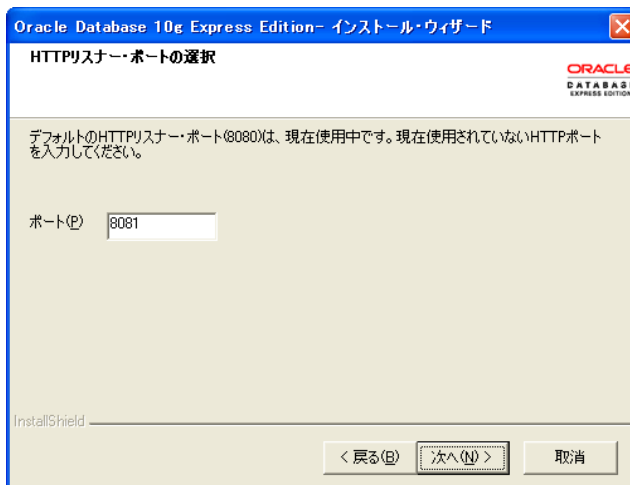


図 2-5 Web 管理ツールのポート指定

ADempiere

(手順 3) パスワード指定

データベースのパスワードを指定します。パスワードは後で使うのでメモしておいて下さい。

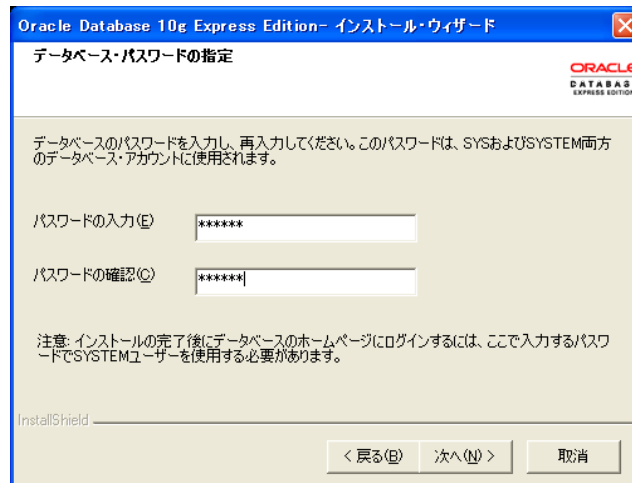


図 2-6 パスワードの指定

(手順 4) インストールの実行

以下の画面で、「インストール」ボタンをクリックすると、インストールが開始します。

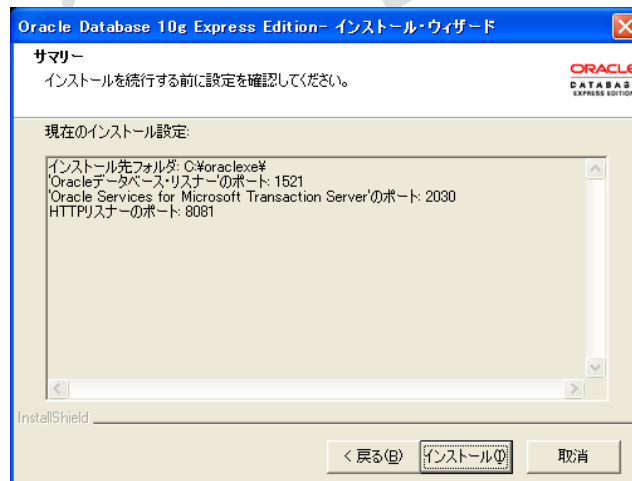


図 2-7 インストール内容の確認

ADempiere

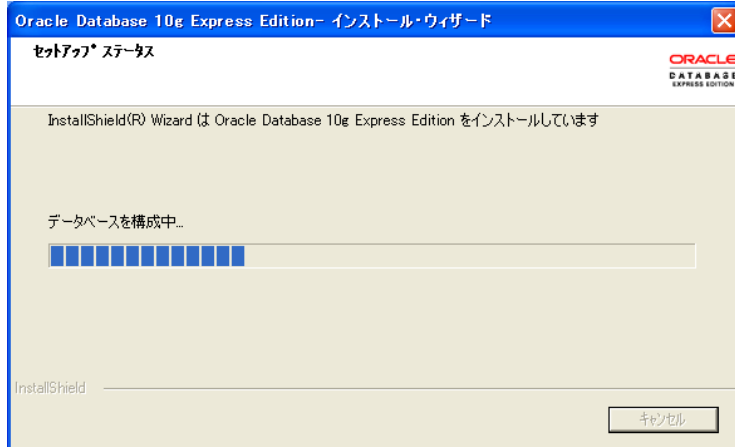


図 2-8 インストールの進捗

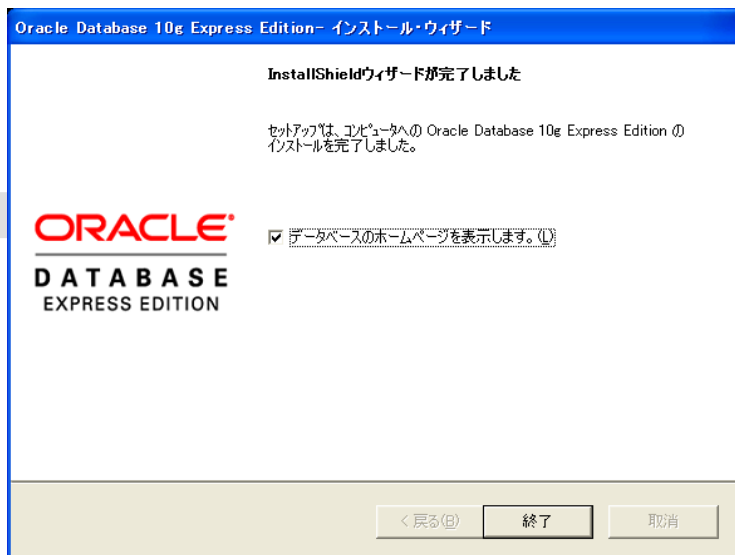


図 2-9 インストールの完了

上記の画面が表示されたら、インストールは完了です。

ADempiere

2.3 Oracle XE の起動設定 (任意)

ウィンドウズ起動時に Oracle を起動する設定にしていると、ウィンドウズの起動が遅くなるので、Oracle の起動設定をします。

Windows のスタートメニュー(左下にある「スタート」ボタン)から「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「管理ツール」→「サービス」を選んで、「サービス」ウィンドウを起動してください。

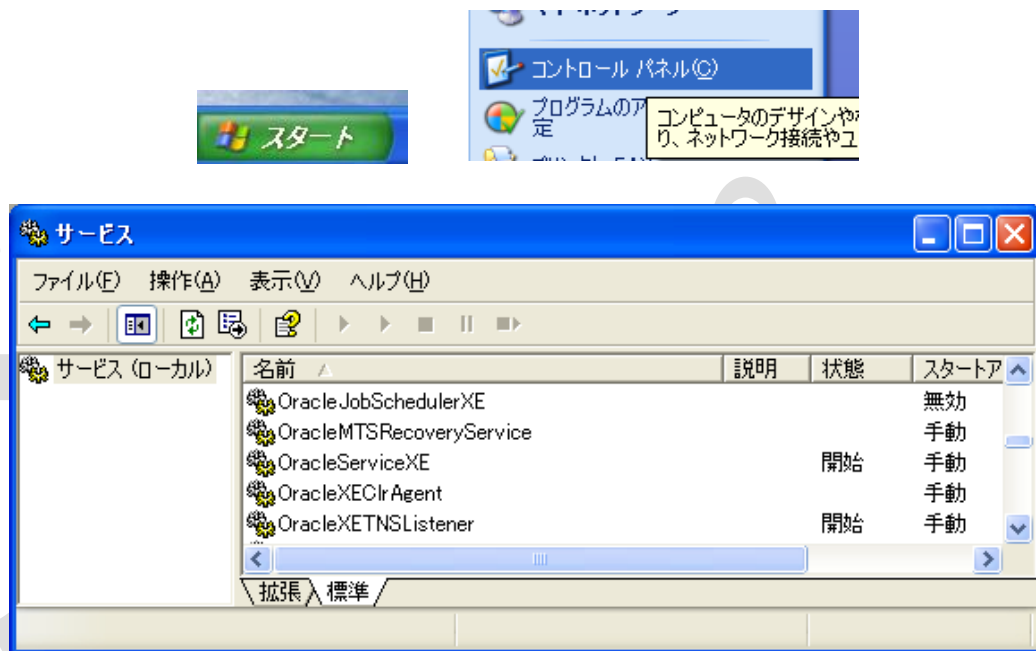


図 2-10 サービス管理画面

OracleServiceXE を右クリックして、「スタートアップの種類」を「手動」にしてください。

OracleXETNSListener も同様に「手動」にしてください。

これでウィンドウズ起動時には Oracle は起動しなくなります。

Oracle を起動するときは「サービス」から OracleServiceXE と OracleXETNSListener を右クリック→「開始」で起動出来ます。

ADempiere を実行するときに、Oracle Xe を起動してください。

ADempiere

3 PostgreSQL のセットアップ

3.1 PostgreSQL のダウンロード

PostgreSQL は、オープンソースのデータベースソフトウェアです。

このマニュアルでは、2009 年 12 月 23 日時点で最新の、バージョン 8.4.2 のインストール方法を説明します。

PostgreSQL は、日本 PostgreSQL ユーザ会にあるリンクからダウンロードできます。

PostgreSQL のダウンロードサイト

http://www.postgresql.jp/PostgreSQL/8_4/8_4_2

インストールファイルのダウンロード先

<http://www.enterisedb.com/getfile.jsp?fileid=810>

3.2 PostgreSQL のインストール

PostgreSQL のインストール手順を以下に記します。

手順 1) インストーラの実行

ダウンロードが完了したらインストール用の実行ファイルをクリックします。



ADempiere

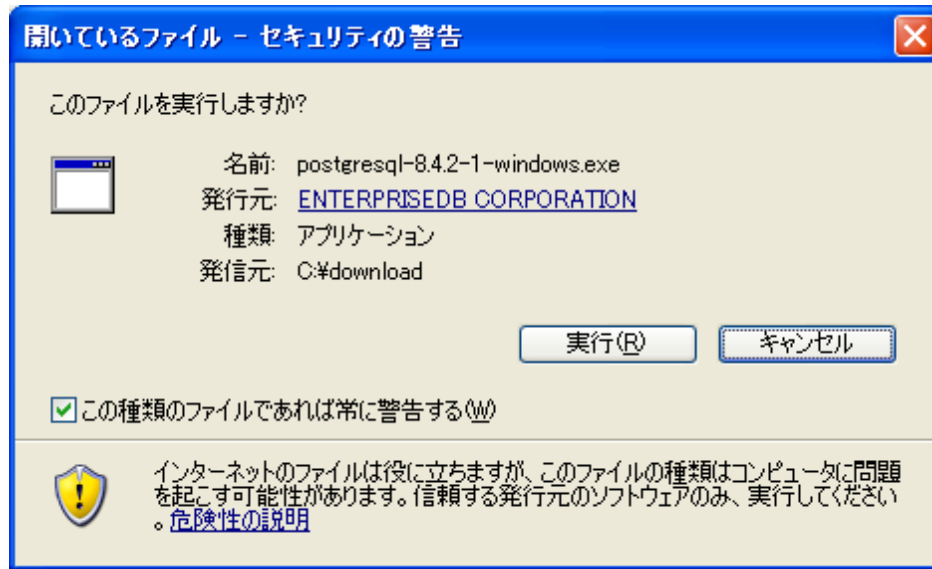
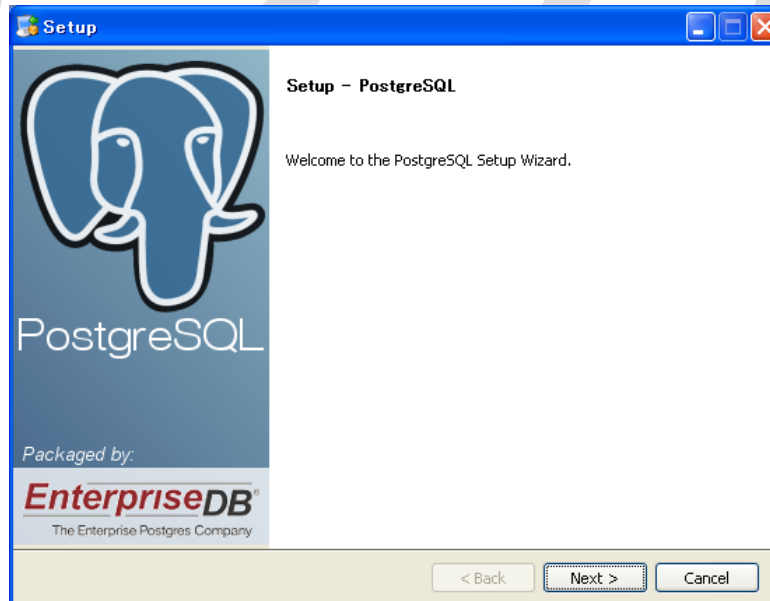


図 3-1 インストール実行確認

手順 2) インストール

インストーラーが起動するので指示に従ってインストールして下さい。



ADempiere

手順 3) インストールディレクトリの指定

Install Directory と Data Directory はデフォルト値のまま問題ありません。

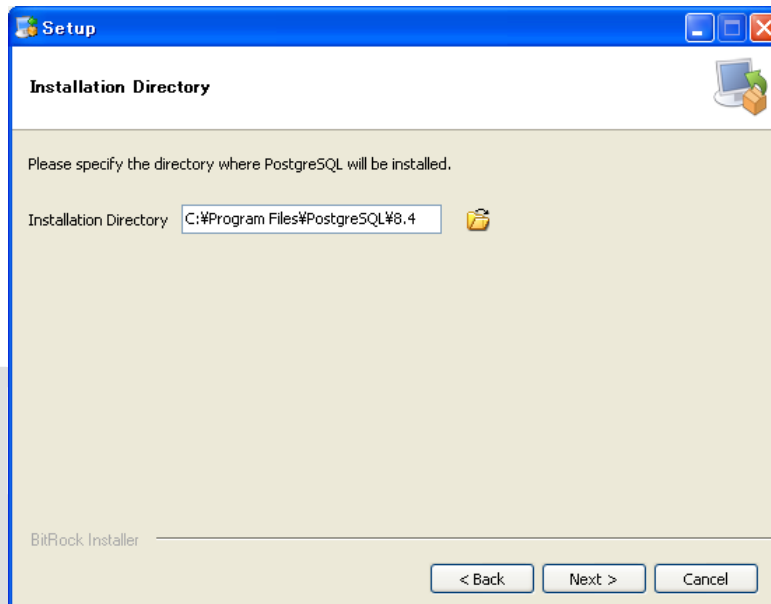


図 3-2 インストールディレクトリの指定

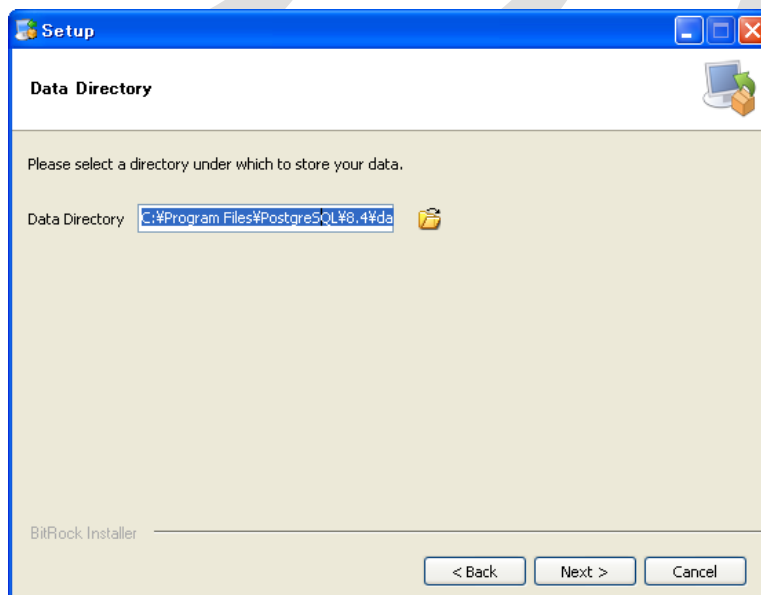


図 3-3 データディレクトリの指定

ADempiere

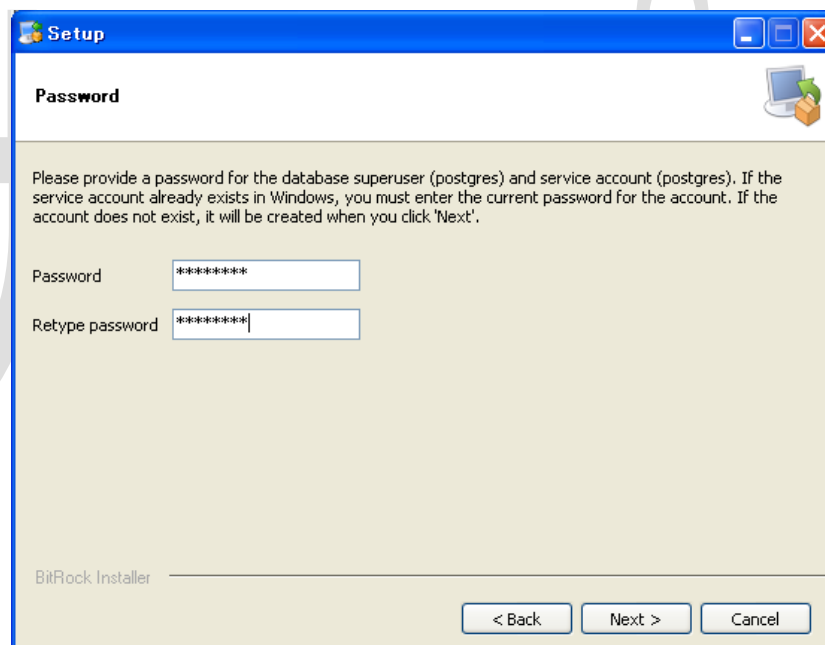
手順 4) パスワードの設定

Windows に PostgreSQL をインストールすると、Postgres という名前の Windows のユーザーアカウントが作成されます。

Password の設定では、Postgres アカウントのパスワードを設定します。

Postgres アカウントがすでに存在している場合は、正しいパスワードを入力する必要があります。

Postgres アカウントが存在していない場合は、「Next」をクリックした時にアカウントが作成されます。



手順 5) Port の指定

Port では、PostgreSQL が利用する TCP ポート番号を指定します。この値は 5432 のままにしてください。

ADempiere

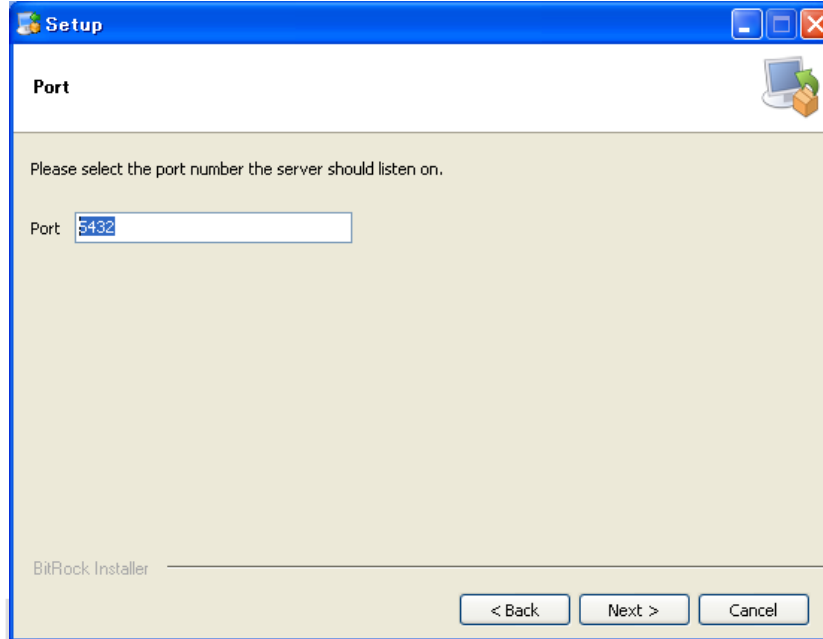


図 3-4 Port の指定

手順 6) Locale の指定

Locale は C を選択してください。Next を押すとインストールが実行されます。

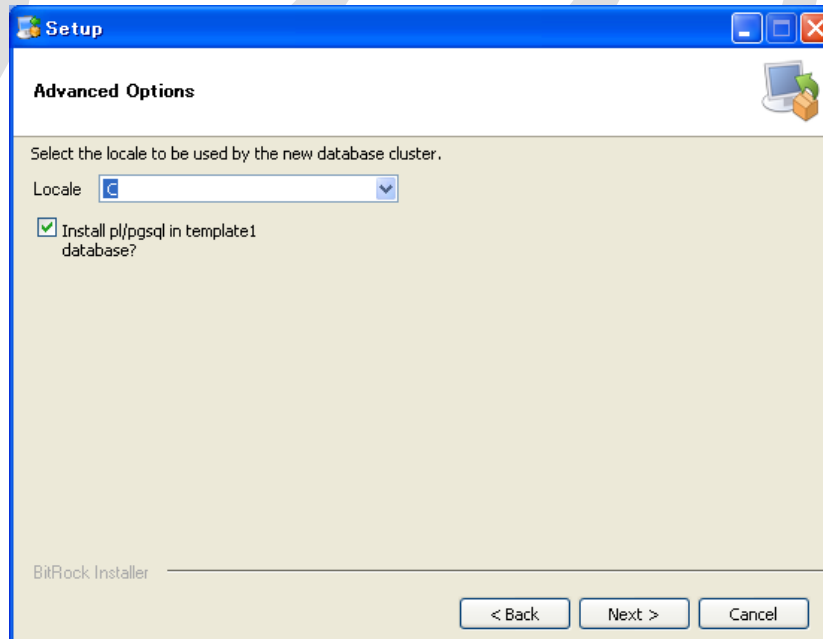


図 3-5 Locale の指定

ADempiere

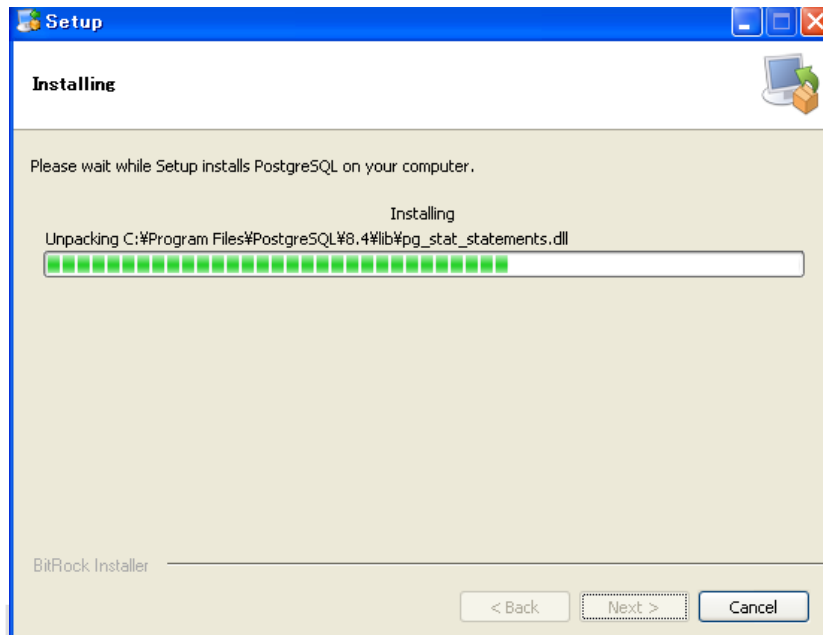


図 3-6 インストールの進捗

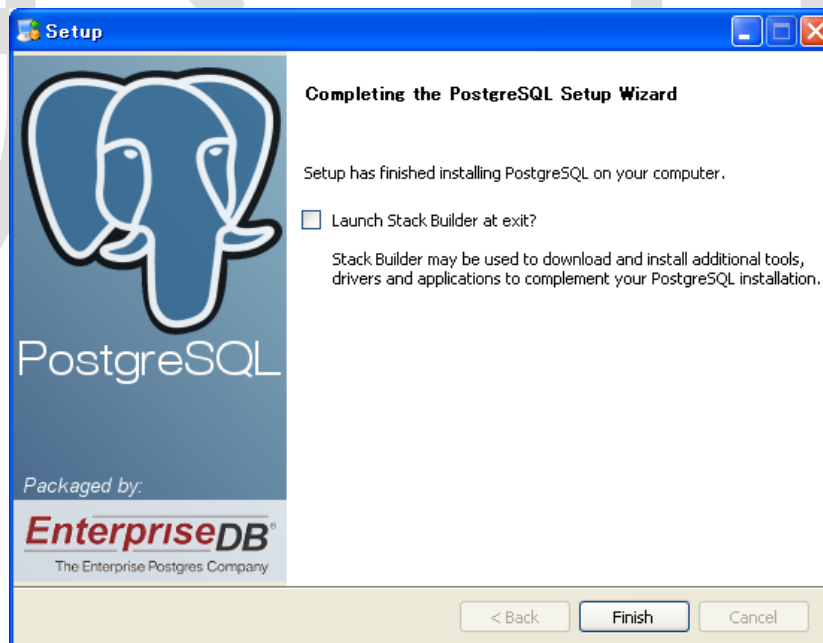


図 3-7 インストール完了画面

インストールが終わると上記画面が表示されます。「Launch Stack Builder at exit?」のチェックは外してください。

ADempiere

3.3 PostgreSQL の起動設定 (任意)

ウィンドウズ起動時に PostgreSQL を起動する設定にしていると、ウィンドウズの起動が遅くなるので、PostgreSQL の起動設定をします。

Windows のスタートメニュー(左下にある「スタート」ボタン)から「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「管理ツール」→「サービス」を選んで、「サービス」ウィンドウを起動してください。

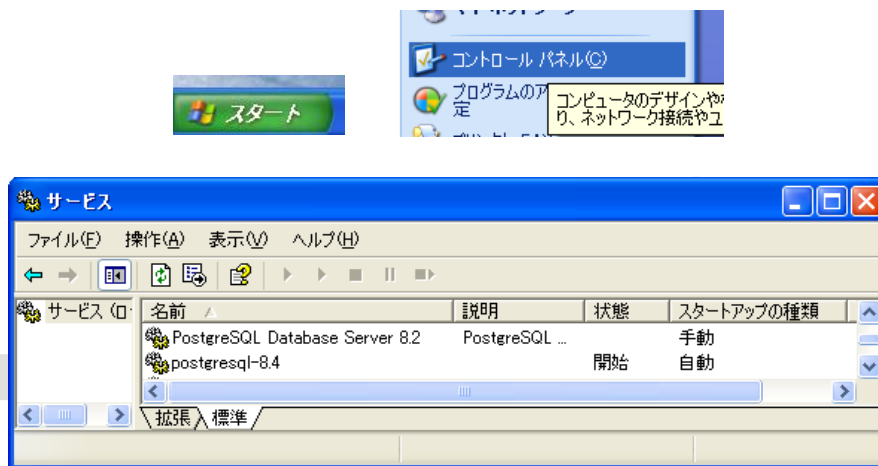


図 3-8 サービス管理画面

「postgresql-8.4」を右クリックして、「プロパティ」を選ぶと設定を変更できます。「スタートアップの種類」を「手動」にして、右下の「適用」をクリックください。

これでウィンドウズ起動時には PostgreSQL は起動しなくなります。

PostgreSQL を起動するときはウィンドウズのスタートメニューから

すべてのプログラム > PostgreSQL 8.4 > Start Server をクリックしてください。

ADempiere

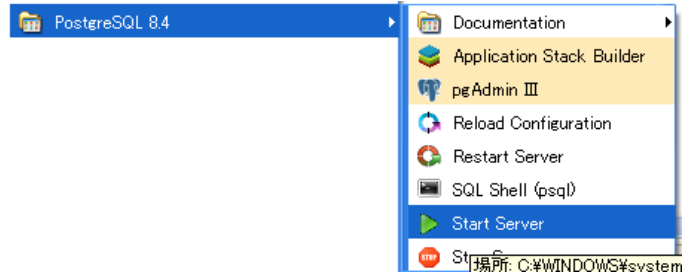


図 3-9 PostgreSQL の起動

3.4 PostgreSQL のアクセス設定

PostgreSQL をインストールしたフォルダの `data\pg_hba.conf`

(通常は、`C:\Program Files\PostgreSQL\8.4\data\pg_hba.conf`)

をテキストエディタで開いてください。

ファイルの最後にある、下記の箇所に PostgreSQL をインストールした PC の IP アドレスを設定してください。

```
# IPv4 local connections:
```

```
host all all 127.0.0.1/32 md5
```

例 1

```
host all all 192.168.1.11/32 trust
```

例 2

```
host all all 192.168.1.0/24 trust
```

ADempiere

3.5 PostgreSQL のパス設定

psql.exe などがある PostgreSQL の bin フォルダを環境変数「Path」に登録します。

マイコンピュータを右クリックして「システムのプロパティ」を表示してください。

詳細設定タブの「環境変数」ボタンを押すと「環境変数」ウィンドウが表示されます。

「システム環境変数」の中から「Path」を選択して「編集」ボタンを押してください。

変数名と変数値が表示されるので、変数値の末尾に、PostgreSQL をインストールしたフォルダの bin フォルダを追加してください。

デフォルトの設定では、以下となります。

```
;C:\Program Files\PostgreSQL\8.4\bin
```

3.6 Adempiere 用データベースの作成

adempiere 用のデータベースを作成します。

ウィンドウズのスタートメニューから

すべてのプログラム > PostgreSQL 8.4 > pgAdmin III をクリックしてください。

pgAdmin III が起動します。

ADempiere

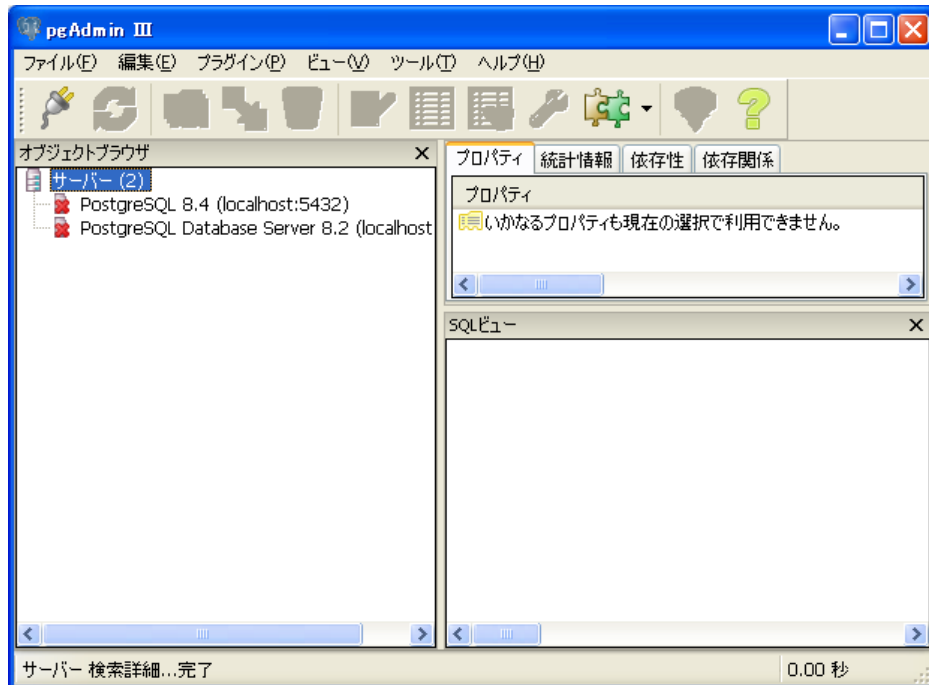


図 3-10 pgAdmin III の画面

左側にある PostgreSQL 8.4 を右クリックして表示されたメニューから「接続(C)」をクリックしてください。パスワードの入力を求められるので、インストールしたときに入力した、Postgres アカountのパスワードを入力してください。PostgreSQL 8.4 に接続するとアイコンの × ボタンが消えます。

「データベース」を右クリックして「新しいデータベース…」をクリックしてください。

表示されたダイアログウィンドウで、「名前」に「adempiere」と入力して OK を押してください。adempiere という名前の新しいデータベースが作成されます。

ADempiere

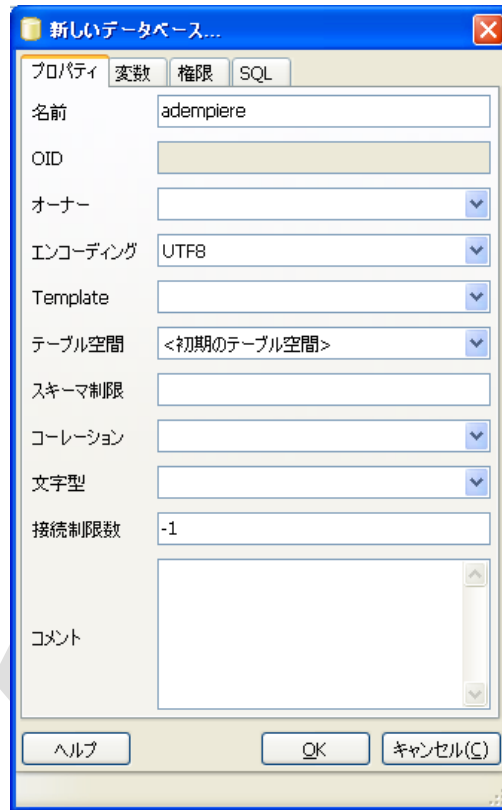


図 3-11 データベース作成画面

以上で PostgreSQL のインストールと設定は終了です。